

単元名 プラタナスの木から広がるぼくの世界～リーフレットで伝えよう～
「プラタナスの木」(光村図書 4年)

1 単元について

【単元観】

○本単元は、小学校学習指導要領（平成29年）の国語科第3学年及び4学年の内容【C 読むこと（1）】の指導項目イ「登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること」及びエ「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像すること」を受けて設定されている。単元のねらいは、登場人物の気持ちや考えの変化を捉える力を育成することである。本教材は、三人称限定視点から描かれた作品である。中心人物「マーちゃん」は、おじいさんとの出会いやプラタナスの木がなくなってしまうことから、プラタナスの木という存在に対しての気付きが生まれ、認識が変化していく作品である。また、中心人物は、本学級の子どもたちと同じ4年生である。そのため、中心人物の気付きや認識の変化を通して、子どもたちも同様に気付き、認識の変化を感じることができ、同時に、自分の経験や考えと合わせて解釈することができる教材である。

【児童観】

○本学級の児童は、これまでに「一つの花」や「ごんぎつね」で読む学習を行ってきた。大切だと思う文を見付け出しながら出来事の流れを捉え、物語の盛り上がりについて考えてきた。

読み取りの力を試すプレテストの結果においても、正答の児童は全体の9割だった。しかし、出来事の流れを捉えることはできるが、場面の移り変わりや登場人物の心情や叙述を基に豊かに想像することは十分にできているとはいえない。プレテストの登場人物の心情を考える問題の正答率は全体の8割で、叙述をもとに想像する問題の正答率は4割だった。友達の考えを聞き、感覚的に反応しているところが多く、教師の切り返しや揺さぶりなどで叙述に返らせることで読みを補ってきた。また、話し合い活動は好きだが条件に合わせて書くことによって自分の考えを深めることを苦手としている児童が多い。

【指導観】

○指導に当たっては、まず、第1次ではプラタナスの木の写真を見せ作品を読み、題名にもある「プラタナスの木」のイメージを図りながら読み進めていく。そして場面分けをして全体の流れを大きくとらえていきたい。第2次では、場面の出来事をもとに物語全体をとらえていく。そして、中心人物の心情の変化をとらえて読むために、プラタナスの木に対する認識の変化について、根拠となる叙述を基に中心人物の心情を吹き出しに書くようにしていく。中心人物と対人物や「プラタナスの木」とのつながり、そして「プラタナス公園」の認識の変化を考えていくようにする。その際、思考ツールを用いて、視点人物との関係を対比して表したり矢印などで関連付けたりしながら整理をしていく。また、友達との交流を通して自分の考えを広げたり、「自分の考えより、友達の考えのほうがぴったりくるかもしれない」といったように、考えを深めたりしていきたい。そのために、共通の課題に対して考えが検討されるような交流の場を設定する。第3次では、児童に具体的な目的意識・相手意識をもたせるために、図書活動と関連させ、図書室にリーフレットとして掲示するという実の場を設定して単元を貫く言語活動の充実をめざしていく。

2 単元の目標

- 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。【思考力、判断力、表現力等 C (1)エ】
- 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。【思考力、判断力、表現力等 C (1)イ】
- 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。【知識及び技能 (1)オ】
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
【言語活動例】 言語活動 「リーフレットで伝えよう」 「詩や物語などを読み、内容を説明したり考えたことなどを伝え合ったりする活動」(言語活動例イ)		
○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。 (1)オ	○「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C (1)イ) ○「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C (1)エ)	○学習の見通しをもって、積極的に登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、物語の魅力を紹介する文章を書こうとしている。

4 付けたい資質・能力

主体性	相手意識・目的意識をもって進んで学習に取り組み、既習を活かして考えることができる。
コミュニケーション能力	叙述を基に登場人物の気持ちの変化を読み取る活動を通して、自分の思いや考えを伝え合うことで考えを深めることができる。
メタ認知	学習活動を振り返り、叙述から気持ちの変化等を考え、まとめる力や友達との話し合いを通して気づいたり、自分の考えを深めたりする力がついたことを客観的に振り返り、今後の学習への意欲につなげることができる。

5 単元計画 (全10時間)

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知・技	思・判・表	態度	評価規準 (評価方法)
一	1	課題の設定 ・学習計画を立て、見通しをもつ。 ・初発の感想を書く。			○	・単元のめあてや学習計画を理解し、場面の様子を想像しながら読んで初発の感想を書いている。 【態度】(ノート、行動観察)

二	2	情報の収集 ・物語の設定をとらえ、あらすじをつかむ。 ・誰の視点で書かれたものかを確認する。	○		・登場人物、視点人物、時、場などの設定をとらえ、物語の大体をつかみあらすじをとらえることができる。 【知・技】(ワークシート)
	3	・場面を確かめ、それぞれの場面の様子や出来事をまとめる。	○		・場面を確かめ、それぞれの場面の様子や出来事をまとめることができる。 【知・技】(ワークシート)
	4	・物語の最初と最後で中心人物がどのように変化したのかを考える。		○	・会話文や行動、情景などの叙述に着目して、登場人物の変化などを読み取っている。 【思・判・表】(ワークシート)
	5	・中心人物が変わるきっかけとなった出来事についての自分の考えをまとめる。		○	・場面と場面のつながりを考えたり、自分と照らし合わせて具体的に想像したりしながら読み、登場人物の変化やそのきっかけを考えている。 【思・判・表】(ワークシート)
	6 (本時)	・最後の場面で中心人物が感じていたことについて、自分の考えをまとめる。		○	・中心人物の気持ちについて、想像したり、考えたりしたことを、友だちと交流して考えを深めている。 【思・判・表】(発言・ワークシート)
	7	・「プラタナスの木」の魅力を紹介する文章を書く。	○		・これまでの学習を振り返り、物語の「あらすじ」、「物語の魅力」、「感想」を書くことができる。 【知・技】(ワークシート)
三	8 ・ 9	まとめ・創造・表現 ・自分の選んだ本についての紹介リーフレットを作る。		○	・自分が読んだ本の登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像し、物語の魅力を紹介する文章を書いている。 【思・判・表】(カード)
	10	振り返り ・「リーフレット」を友達と読みあい、感想を伝え合う。 ・学習を振り返る。		○	○ ・友達と感想を伝え合う活動に進んで取り組んでいる。 ・【態】(観察・ワークシート) ・紹介する文章を友達と読みあい、よさを見つけたり、自分の考えを広げたりしている。 【思・判・表】(カード)

6 本時の学習

(1) 本時の目標

○最後の場面で中心人物が感じていたことについて、自分の考えをまとめることができる。

(2) 観点別評価規準

○登場人物の気持ちについて、想像したり叙述と結び付けたりして考えたことを書くことができ、自分の考えとその理由を友だちに伝えることができる。【思・判・表】(ワークシート)

(3) 準備物

掲示物（挿絵，クラゲチャート図）ワークシート 付箋

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項（・） 「◆努力を要する」状況と判断した 児童への指導の手立て	評価規準（○） （評価方法）
導入	1 本時の課題を確かめる。 めあて	・単元のゴールを意識させるために，本時の課題を確認する。	
展開	最後の場面でマーチンはどんなことを感じていたのか考えよう。		
	2 音読をし，本時の課題を考える。 3 最後の場面でマーチンが感じていたことを考えて書く。	・自力解決に入る前に，中心人物の気持ちが感じ取れる叙述について考え，全体で見通しを共有しておく。 ・マーチンの思いについて，叙述やそこから想像したことを基に，自分の考えとその理由をつなげて書けるようにするため，クラゲチャートを用いる。 ◆切り株の上に立っている挿絵に着目させるようにし，マーチンの思いに気付かせていく。	○中心人物の気持ちについて，想像したことや叙述と結び付けて考えたことを書くことができ，自分の考えとその理由を友だちに伝えることができる。 ・【思・判・表】 （発言・ワークシート）
まとめ	4 グループで交流する。 ・マーチンは，さみしく思っていると思います。 ・みんな同じ思いで，おじいちゃんに会いたいです。 ・ぼくたちが公園を守っていくんだと思っています。 5 全体で交流する。 まとめ	・「かなしい」や「楽しい」などの簡潔な言葉でまとめることがないように，話し合いの仕方について助言する。 ・交流が終わったグループから，付箋を用いて友達の考えの良かったところや「なるほど」と思ったところについて書いて渡すように促す。 ◆交流がうまく進んでいないグループには，「話し合いのコツ」の話型を使うように促す。 ・グループでまとめた考えを板書に貼り，本時のねらいに関連する言葉や共通する考えを整理し，子どもの言葉でまとめられるようつないでいく。	
	マーチンはこれからプラタナスの木を大切にしたり，自分たちが公園を守ったりしていこうと感じている。		
	6 本時の学習の振り返りをする。	・めあてに対して本時の振り返りを書くことと，単元計画についても「わかった・できた・なるほど」の観点で評価するように促す。	
	<p>☆目指す児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マーチンの思いを考え，その理由を文章に書いてあることをもとに説明したり聞いたりすることで自分の考えが深まった。 ・マーチンが最後の場面でどのような思いを持っていたのか，友だちの考えを聞くことで，考えが広がった。 		

(5) 板書計画

めあて

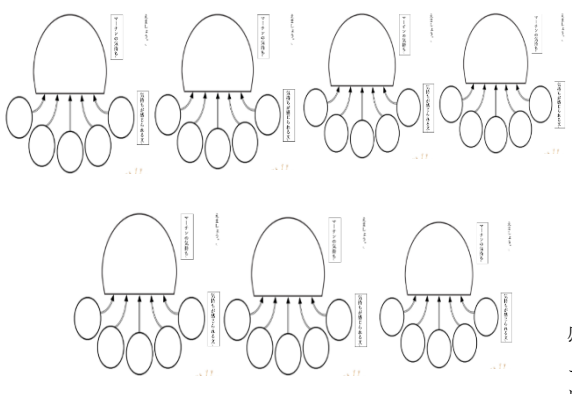
最後の場面はマーチンがどんなことを感じていたのか考えよう。

最後の場面の文章



◎マーチンがどんなことを
感じているのか伝わる部分
はどこでしょう。

◎マーチンはどんなことを
感じているのだろうか？



話し合いの型

まとめ

マーチンがこれからマサチューセッツの州をめぐり、自分たちが公園を守
めようとしていることを伝える。